

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第29週 2025年7月14日（月）～2025年7月20日（日）2025年7月24日作成

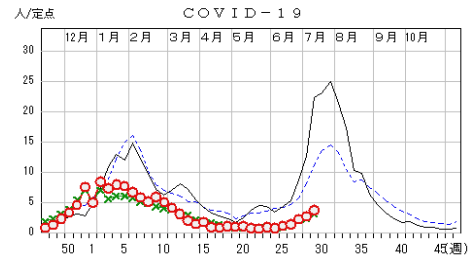
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）新型コロナウイルス感染症

第29週の報告数は186人で、前週より45人多く、定点当たりの報告数は3.72であった。

年齢別では、50～59歳（26人）、80歳以上（23人）、40～49歳（21人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（6.00）、上五島保健所（5.00）、県南保健所（4.80）であった。

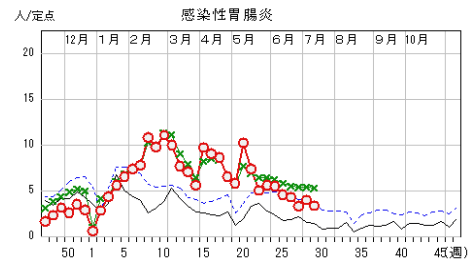


（2）感染性胃腸炎

第29週の報告数は102人で、前週より23人少なく、定点当たりの報告数は3.40であった。

年齢別では、1歳（17人）、10～14歳（15人）、2歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（9.50）、西彼保健所（7.33）であった。

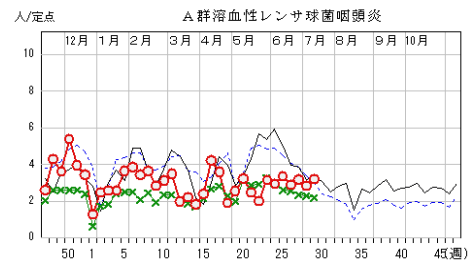


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第29週の報告数は96人で、前週より8人多く、定点当たりの報告数は3.20であった。

年齢別では、5歳（16人）、3歳（15人）、10～14歳（15人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（15.67）であった。



○—○ 当年（長崎県） — 前年（長崎県）
×—× 当年（全国） - - - 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：30、眼科定点数：8、基幹定点数：11
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第29週の報告数は186人で、定点当たり報告数は3.72でした。地区別では、県北地区（6.00）、上五島地区（5.00）、県南地区（4.80）は他の地区より多くなっています。ほとんどの地区で前週より増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第29週の報告数は102人で、定点当たり報告数は3.40でした。地区別にみると、県北地区（9.50）、西彼地区（7.33）は、他の地区より多くなっています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第29週の報告数は96人で、定点当たりの報告数は3.20でした。地区別では、県南地区（15.67）が警報レベルの報告数となっています。

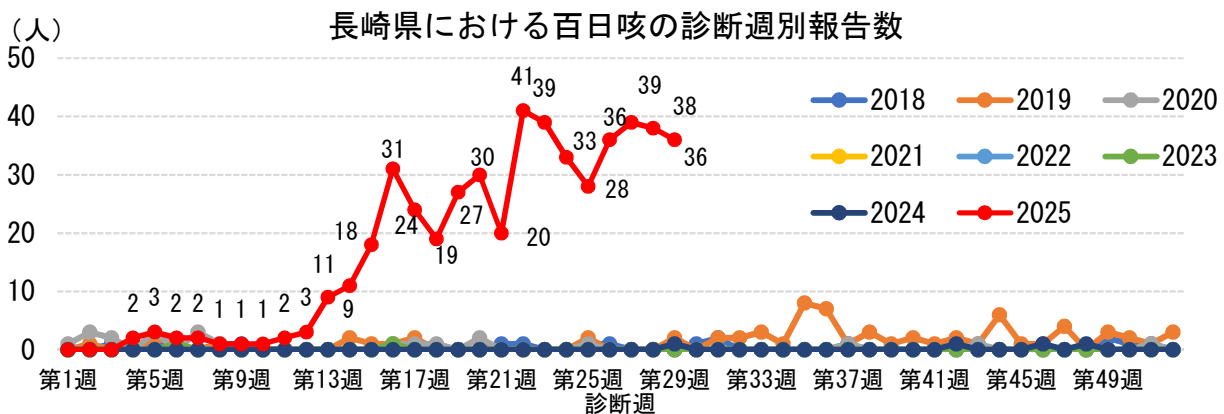
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：百日咳の報告が多くなっています

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

2025年第29週には36件の報告があり、年代別では、10代（15人）および10歳未満（7人）が多くなっています。また、2025年第29週までの496件の報告においても、10代（249件、50%）、10歳未満（130件、26%）が多く全体の約8割を占めています。

感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。



☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

夏期休暇を利用して海外へ渡航される方が増えることが予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

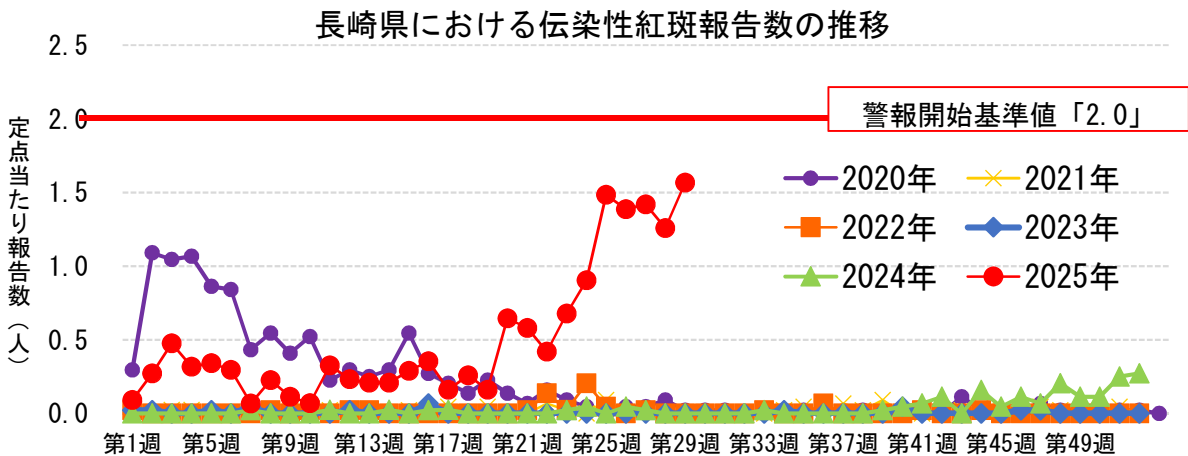
<https://www.forth.go.jp/index.html>

☆トピックス：伝染性紅斑の報告が多くなっています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

2025年第29週の定点当たり報告数は「1.57」で、過去5年の中で、最多の定点当たり報告数となりました。地区別にみても、佐世保地区（4.67）、壱岐地区（2.50）、長崎地区（2.00）、西彼地区（2.00）、県央地区（2.00）は警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。



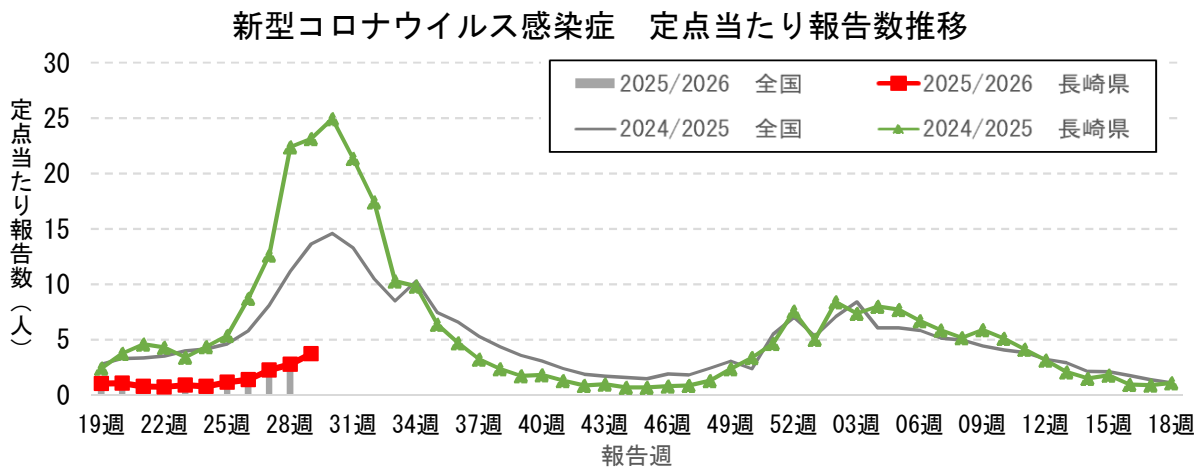
☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第29週の定点当たり報告数は「3.72」で、5週続けて増加しました。

年代別にみると、10代（18%）、50代（14%）、80歳以上（12%）の順に多くなっています。

ほとんどの地区で前週より増加しましたので、今後の動向に注意が必要です。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

詳細は長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」に掲載しています。



新型コロナウイルス感染症の保健所別報告数

	長崎県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
報告数	186	24	46	4	18	27	24	18	2	15	8
定点数	50	6	11	3	5	8	5	3	3	3	3
定点当たり報告数	3.72	4.00	4.18	1.33	3.60	3.38	4.80	6.00	0.67	5.00	2.67

